

安全作業手順書【集水マス蓋枠補修工】

見直し基準をした危険性の評価			
可能性(A) \ 重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が懸念)
○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)
△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要 (優先順位)
△○、○△	かなり小さい	2	視察等で必要なし (優先順位)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(環田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛鳥北IC,有松IC~上社JCT)
機器工具 ・車両	スコップ、サンダー、ドリル、 小型移動式クレーン、清掃用具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、 保護メガネ、切削作業用手袋、軍手、皮手袋

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント (~なので~になる)			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ) (私達はこうする)			リスクの再見積り		
			(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク			
準備工	作業確認 作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手)を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する 使用機械、工具等の点検を行う しらすんたーの動作確認及び点検を行う 小型移動式クレーンの点検を行う	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して 作業前に 朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする 手順書に則り	手順を間違えて思わぬケガをする 免許区分の理解不足で、無免許運転をしよう / / / / 作業中に機械が故障し、思わぬケガをする 電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する / / / 作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う 刃の可動部、連結部はレンチ等の工具にて緩みが無いことを必ず確認し、始動確認を行う。 毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○	○	1	○	○	1	
車両確認	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
作業車両準備	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
作業車両点検	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
出発準備	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
出発	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
規制内進入	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
車両移動	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
停止	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
逃走防止	小型移動式クレーン作業手順書に則る													
使用機器等	車両から必要機材、工具を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして ③クレーンを使用するときは手順書に則って	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から 車両に正対して昇降する。飛び降らない。	○	△	2	小型移動式クレーン作業手順書に則る			
試掘及び立会	埋設物の確認を試掘に行い、立会いを受ける	試掘がある場合は試掘作業手順書に則って	試掘作業手順書に則る											
施工準備	グレーチング蓋を外す	閉間が困難な場合は複数人で	外した蓋を移動させる際、落下させ手や足を負傷させる	△	△	3	重量物は二人以上で慎重に移動させる	○	○	1				
グレーチング 蓋枠撤去 はつり工	鋪路面をカッターで切る ブレーカー、ピック等で舗装をはつり取る	深さを確認しながら切断する 舗装の悪点部分を残すことなく全て	/ はつりガラが一般車両に飛散する	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
グレーチング 蓋枠設置	グレーチング蓋を再設置する 調整用の全ネジボルト余剰部切断 常温塗材敷き均し	蓋の安定性を確認して 風による飛散に十分注意して スコップ、ジョレン、レーキを使用して	手をはさまないように 火花が目に入り飛散する センターライン付近でレーキ柄が 車線側へはみ出し車両に接触する	○	×	3	無理はせず慎重に設置する。 保護具の着用を必ず行う 作業時は必ず現場監視員を配置を配置する	○	○	1	○	○	1	
仕上げ	発生材や道具を片付ける 清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する	車線側、他の作業員等十分周間に注意して 車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	片付け作業やクレーン操作作業が重複し 作業員同士や、クレーンとの接触を起こす 掃き掃除やブロー使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う 職長は必ず場内全体を監視し、 警笛等を用いて合図をしながら清掃する	○	○	1	○	○	1	
本作業	現場離脱	25.車両回送手順書に則る												
	帰着	25.車両回送手順書に則る												
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。												
	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にパルン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライダバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②パルン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1			
	台車を使用する場合	台車を使い小搬送を行う時は、台車の逃走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逃走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に置き置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1			



25.車両回送手順書に則る